

「アダム・スミスが
つなぐもの」

私事で恐縮ですが、先日卒寿を迎えられ、今もお元氣な大学時代の恩師(当時は経済学部教授)とお会いする機会があり、その折、思いがけないご提案を頂戴しました。ご自身の年齢を考えられ、「身辺の断捨離を始めた。ついでに私が最も大切にしているアダム・スミスの国富論の原書(復刻版)を、近江商人発祥の地元である滋賀銀行に寄贈したい」という主旨でした。スミスの「国富論」発刊の前に書かれた著作「道徳感情論」は国富論の思想的背景を論じたもので、近江商人に通じるものがあるとの思いからでした。

突然のお話に驚きながら、スミスと近江商人の関係について、私なりに理解するために一冊の本(堂目卓生著「アダム・スミス」)を手にしました。「経済学の祖」アダム・スミスの国富論について、皆さんは「個人の利己的な経済行動が、結果として社会全体の利益につながるようになる。よって政府による市場への規制を撤廃し、競争を促進することが経済成長につながり、国は栄える」と記憶されている方が多いと思います。まさに「見えざる手」によるものと理解されています。

しかし、スミスが考える個人の位置付けは無節操、無慈悲な個人ではなく、他人に同感し、同感される個人であること、つまり「相互同感」が大前提となつています。道徳哲学の教授でもあったスミスらしい考え方によるものです。ビジネスにおける相互同感とは、日本においては16世紀中頃より全国で活躍した近江商人が、他国への進出時に心掛けた「三方よし」の精神と相通じるものがあります。また、スミスが大切に考えた「社会の秩序と繁栄」は、近江商人が重んじた商道徳による社会全体の繁栄と同義語といえます。

国富論が発刊されたのが1776年、近江商人はそれより200年前、すでに商いにおいて実践していたこととなります。イギリスでは重商主義の時代、日本では戦国時代と国や時代は異なりますが、経済的思想に通じるものがあることに大変興味深いものを感じまし

た。同時に、文献を調べるなかで改めて近江商人の道徳観とその奥深さ、すごさに驚かされました。

また、我が恩師は、経済学者のシュンペーター研究に生涯を捧げられましたので、シュンペーターに関する著書も数多く寄贈いただきました。シュンペーターは、資本主義の本質を「イノベーション(創造的破壊)」と捉え、今もなお多くの経営者に影響を与えています。近江商人は、当時のイノベーターとして、新しい市場を求めて日本全国で活躍した先駆けといえます。

アダム・スミスの「相互同感」と近江商人の「三方よし」、そしてシュンペーターの「イノベーション」。これら3つのキーワードから導かれる概念は、まさに我々が進める「SDGsをビジネス化する」との考えと同一です。

2030年までに「飢餓や貧困をなくす」「海や陸、生物を含めた地球環境を守る」など17ゴールの目標達成を掲げるSDGsは、自身と関わりのない人たちの生活や社会に思いを馳せ、その境遇や感情に「同感」するとともに、社会的課題の解決による地球規模での「共存共栄(三方よし)」を目指しています。さらには、理想主義やボランティアの精神だけでなく、「ビジネスを通じて社会を変える」という革新的な視座を持ち込み、新たな「イノベーション」に期待を寄せています。その結果、海洋汚染の一大因である廃プラスチックのリサイクルなどSDGs思考で進めるさまざまなビジネスが、世界的な広がりを見せています。

私たち滋賀銀行も、アダム・スミスと近江商人、そしてシュンペーターをつなぐSDGsの世界の実現を目指し、経済と環境と社会の好循環による持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。

この度、弊社本店2階の貨幣資料室にある「近江商人コーナー」をリニューアルし、近江商人に関する幾つかの文献、書籍と合わせて、寄贈いただいた貴重な書籍を展示させていただきます。ご興味のある方は弊社総務部(077-521-2250)へ事前に連絡の上、ご高覧いただければ幸いです。